

仙人通信 102 御座山 (2111m)

御座山(おぐらやま)は長野県の小海市を挟んで八ヶ岳(硫黄岳)と対峙した山で、地質的には、中央構造線の南側に位置する秩父帯の石炭紀からジュラ紀の山である。

国道 141 号から南相木村の栗生川の唐沢に沿った林道からのピストンを計画した。

林道は半ばダートであるが、この時期ピンクのカワラナデシコやツリフネソウ・橙色のフジクロセンノウ・紫のクサフジが道端で秋を演じる。林道の終点には、5 台程度の駐車スペースがあり、山頂まで 2500m と書かれた大きな看板が迎えてくれる。登山道の入り口は植林されたカラマツ林の中から始まる。台風 14 号の影響で南から湿った風が吹き込み、雲が時折太陽を隠す。今日のこのコースは、殆どが林の中と言う事もあり、山頂での展望に望みを繋いで、踏み出した。カラマツの林床では、黄色いギオンや白いセリ系の花、そして開花時を過ぎたオタカラコウやイケマ・ムグラが散見される。登山道はかなりの急斜面を九十九折に高度を上げて行く。約 50 分で海拔 1350m の不動の滝である。滝は 10m 程の落差があり、黒い節理の岩盤の上からそこそこの水量で滴る。裏見の滝ではないが滝と岩盤の間に直径 10cm もある白いセリやミヤマダイヤモンドソウ・ミヤマヨメナが、又 15cm 程の茎に紫の花を 3 輪付けたトリカブトが初々しい。滝の前を対岸に渡り滝の上部へと進むとギオンに混じり、アキノタムラソウも綺麗な。又地味ではあるが独特の形のハナイカリソウやサイコが足元を楽しませる。

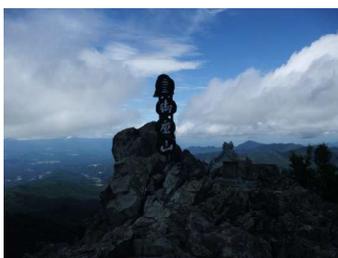
岩は密度の高い玄武岩質や石灰岩や石英片岩のようだ。やがて鎖の付いた急登となり、登り詰めると南側の展望がシラビソの間に開けた。真黄色のイワインチン・アキノキリンソウ・白いウスユキソウが目前に現れる。眼下には青空を映して群青色の南相木ダムが綺麗である。

シラビソやシャクナゲ主体の中を、北側から捲く様に登ると、小さな祠に御岳神社が祭られた最初のピーク(2040m)である。急登の為か、距離の割りに 2 時間も要した。梢越しではあるが岩峰の御座山山頂が左側に望める。シャクナゲ等で覆われた岩稜を鎖を頼りに小さな鞍部まで下がった地点が山口登山口の分岐である。林床には、イワカガミの綺麗な葉やカニコウモリの花が賑やかだ。さらに直進して登り詰めた所に明るい外観の非難小屋がある。小屋の前を左に進むと、山頂が目前に現れる。山頂までの岩稜は、西側がほぼ垂直に大きく抉れている。

岩稜東側のシャクナゲの根本を進むと待望の山頂だ。小さな山頂にはイワインチン・ピンクの嘴状のミヤマホツツジやヒゲ状の葉に紫のボンボリのイワシャジン、矮小化した紫のホタルブクロが咲き誇る。登山口の看板通り、2500m の距離を 2 時間半での到着となった。山頂は期待通りの 360 度の展望ではあるが、八ヶ岳から浅間山までは山腹までしっかりと雲の中である。茂来山・四方原山・天狗山等から東の西上州の山波は期待通り一望できる。例の御巢鷹山も目の前だ。山頂には御岳神社と浅間神社が同じ石の祠で東を向いて祭られ(小海に背を向け)ている。岩稜は白っぽい密度の高くない砂岩質である。隣の四方原山との中間にある白石から南側にある天狗山にかけての断層の位置を、山波から同定してみたり、千曲川の流れを追いかけたり、西上州の俯瞰図を頭に入れたり、誰にも邪魔されない喜びを噛み絞めた。

5 時間弱で車に戻り、野辺山で高原野菜を買い込んでの帰路となった。(h 23 . 9 . 9)

山頂



イワインチン



ミヤマダイヤモンドソウ

